

第17回天草市教育委員会定例会会議録

1 期 日 平成28年12月26日(月)午後3時30分開会

2 場 所 五和農業情報センター マルチメディア室

3 本会議に出席した教育委員

委員 長	花 里 昌 直	委員長職務代理者	黒 鶴 進 治
委 員	行 合 八恵子	委 員	木 下 えり子
委 員	蓑 田 え り	教 育 長	石 井 二三男

4 本会議に出席した事務局職員

教 育 部 長	森 下 洋 一	教育総務課長	山 名 直
学校教育課長	山 本 洋 介	生涯学習課長	大 脇 恵 子
学校給食課長	川 端 浩 二	学校教育課審議員	岡 田 真 治
教育総務課課長補佐	長 島 修	学校教育課係長	池 田 恵美子
総務企画係長	出 永 圭 史		

5 本会議に付した議題等

(1) 審議事項

議第52号 天草市立小・中学校への就学等に関する規則の一部を
改正する規則の制定について (学校教育課)

(2) 協議・報告

(1) 平成28年度全国学力・学習状況調査の天草市における分析結果
について (学校教育課)

(2) 平成29年1月行事予定について (教育総務課)

6 本会議の概要

(1) 開会

花里委員長： ただ今から、平成28年第17回天草市教育委員会定例会を開催する。傍聴人がいないことを確認する。

(2) 前回会議録の承認

花里委員長： 前回会議録の承認であるが、何かご意見はないか。ないようであれば承認してよろしいか。

(全員承認する)

(3) 教育長報告

石井教育長： 2学期は大きな事故もなく、無事終了することができた。県内では県立高校での不祥事(飲酒運転)、新聞にも掲載されたが、長洲中学校で生徒の暴力により難聴になり裁判になっている。アンケートを破棄したとのことであるが、アンケートを取っておかなければならないのか、そうでないのか。情報公開の文書になるのか、ならないのかということは別にして、事故があった場合には、念には念を入れて対応しなければならない。また、市における人事異動のヒアリングを済ませ、先日から教育事務所とのヒアリングに参加している。明日、明後日とヒアリングが実施されるが、精一杯対応していきたい。何か情報があれば、提供いただきたい。

(4) 議案

議第52号 天草市立小・中学校への就学等に関する規則の一部を改正する規則の制定について

花里委員長： 事務局から説明をお願いします。

山本課長： 議案書1ページ、資料1ページをお願いします。天草市立小・中学校への就学等に関する規則第4条に基づき通知を行っている入学通知書の様式を、事務の効率化を図ることを目的として変更するものである。入学通知書は毎年1月末に該当者約1,500人に対し発送をしている。現在は圧着はがきを利用しているが、特殊な用紙であり印刷は本庁に設置してある大型プリンターを使用している。しかしながら、印刷にあたり位置合わせに時間を要しており、また、印刷時に印刷ミスが発生した場合、数十枚単位で印刷用紙のロスが発生する。このようなことから、通常使用しているA4サイズに変更し、事務の効率化を進めていく。主な改正点は、用紙サイズをはがきサイズからA4サイズに改め、様式変更に伴い文面中の記載文字「左記」を「上記」に変更する。

花里委員長： 何かご質問はないか。ないようであれば議第52号については承認してよろしいか。
(全員同意する)

(5) 協議・報告

(1) 平成28年度全国学力・学習状況調査の天草市における分析結果について

黒鶴職務代理者： 事務局から説明をお願いします。

山本課長： 先月の定例会で平成28年度全国学力・学習状況調査について、概要を説明したが、本日は詳細について報告する。資料2ページをお願いします。2の教科に関する調査の分析について小学校から説明する。天草市の平均正答率が熊本県・全国をともに上回っている項目を○、ともに下回っている項目を△で示している。まず、国語であるが知識・技能をみるA問題については、正答率が県・全国を僅かであるが上回っている。主に活用に関するB問題は、全国を上回ったものの県平均には達していない。全体的に課題がみられた問題としては、漢字を読むこと、パンフレットと説明を関係付けて読むこと、物語の登場人物の様子を複数の叙述を基に読むことがあった。3ページをお願いします。これらのことから改善のポイントとして、授業において、アでは目的に応じて書くことの充実、イでは文章の叙述に即して読む・登場人物についてまとめること。ウでは、話すこと、聞くことの中でインタビューという言語活動について、エでは児童がよく行う新聞づくり等で取り組む図表やグラフの読み取り等の授業の充実について、6年間を見通した系統性のある指導が必要であり、すでに校長会等を通して各学校に指導している。先ほど、国語Aについて良かったと説明したが、15あった問題・質問の中で3問あったローマ字を書くことと読むことにおいては、県・全国よりも5ポイント以上、問題によっては10ポイント近く上回る結果となっている。これまでローマ字の問題を苦手として平均を下回っていた本市の子どもたちの実態があったが、小学校英会話科の学習成果が良い結果に結びついたと考えている。全体の結果としては、昨年と同様、読むことの領域に課題があると捉えている。授業の中で基礎的な読むことの学習を発展させた多読や並行読書を設定をするなど、言語活動の場の工夫は十分行われ、力の育成に繋がっており、それに加え基礎的・基本的な読むことの学習活動、例えば、いつ・どこで・だれが・なにをしたという話のあらすじをきちんと捉える。また、どんな出来事により登場人物の考え方が変わったといった基本的な授業を大切にしよう指導した。

算数Aについては、数と計算・量と測定領域について県・全国の平均正答率を僅かながら上回っている。数量関係に特に課題がみられ、全体の大きさに対して部分の大きさを表す割合の問題、前に10人後ろに19人並んでいる時の全員の人数を求める場合につまずきがみられた。授業の中で考えたことを自分でもう一度確かめる時、問題場面を正しく捉え、何が基準量であるのか、比較量と基準量の関係についてはどうであるのかといった、思考を深める学習活動の工夫が必要である。算数Bについては、図形の領域

のみ県・全国の平均を上回っている。課題がみられた問題として、正方形の縦と横を2cmずつ短くした時の面積の変化、ハードルの数とインターバルの数から4台目のハードルの位置を決める問題があった。授業改善のポイントとして、アでは式の意味の理解や、計算の結果の見積もりを行ったり、結果をもう一度確かめ振り返らせたりすることなどを授業の中で習慣づけること。また、ウでは図形などの学習で、作業の場所を確保することにより、条件や目的に応じて作業したり確かめたりする体験を行わせることが必要である。小学校算数については国語と反対に活用Bの問題で課題が多くみられたことから、基礎・基本を明確にした授業を行うとともに、繰り返し指導や、補充指導の充実により基礎的・基本的知識及び技能の習得を目指す必要がある。

次に中学校について説明する。国語Aについて、書く領域・観点のみ県・全国平均正答率を上回ったが、他の領域・観点は全て県・全国ともに下回る結果であった。書くことについては、伝えたい事柄が効果的に伝わるように書く問題であるとか、集めた材料を整理して構成を工夫して書く問題に課題がみられた。国語Bについては全国をわずかに上回ったものの県平均にはとどいていない。読むこと、特に本や文章から必要な情報を取り出して読むこと。物語の展開に即して主人公の様子を読み取ることなどに課題がみられた。授業改善のポイントとしては、基礎的・基本的な事項の取扱いの場を充分大切にすることを挙げている。アでは語句の意味の理解、イでは辞書の取扱い方など、また、ウでは歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すこと、エでは物語の基本的な読み方、登場人物の言動から様子を読むことなどに努めるよう各学校にお願いをした。

数学Aについては、全ての領域・観点において県・全国の平均を下回る結果であった。事象の関係を式で表すことができるという数学の良さを感じ取ることができる場の充実。また、逆に式の意味を読み取り事象を解釈したり、事象を関数で表したりという生活と数学を繋ぐ実感を伴う学習機会の充実が必要であると感じた。特に、課題があった問題としてAでは、正の数と負の数の計算、分数と小数の乗法、具体的な場面を式で表すなどの問題があった。Bではグラフを読む、グラフに表す問題。具体的な式から問題を説明する問題があった。改善のポイントとしては、アでは数と式の領域において、計算の手順を大切に扱うとともに、計算の結果の見積もりと結果を振り返る場を確保すること、イでは場面を式で表すとともに式が正しいということを説明する活動を行うこと。ウでは作図等の作業においては、作図について正しいかどうかを確かめる振り返りの活動を確保すること。エでは資料を読む活動の充実が挙げられる。以上のようなことから、国語においても、算数・数学においても小・中の結果にははっきりとした相関関係が見られる。小学校の躰きと中学校の躰きは同じである。小中連携、課題を共有した共通した実践が必要であることが改めて浮き彫りになった。

次に児童・生徒質問紙調査について説明する。資料9ページをお願いする。基本的に県・全国と比較して差が顕著な項目について抜き出している。まず、小学校についてである。決まりを守って生活をする児童が多いという結果であった。授業については授業・ノートともにめあてとまとめの扱いがなされていた。課題と感じたことについては、予習をしている児童が少ない。また、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していると答えた児童、学校に行くのが楽しいと答えた児童の割合は少ないという結果であった。日常の学校生活の中で児童一人ひとりが自身の生活を見つめ、課題を見出し、解決する様な場の設定を行い、主体的に学級に関わる児童の育成を図るよう各学校にお願いしたところである。また、役割を与え活動の中で自尊感情・自己有用感を感じ取ることができるような体験も併せてお願いした。

次に中学校についてである。中学校では、学級みんなで協力した・嬉しかった経験がある生徒が多かったこと、地域社会のボランティアに参加する生徒が多かったことなどが特徴として挙げられる。学習やノートでのめあてとまとめの扱いは小学校と同じく良好であった。課題としては、3時間以上学習している生徒が少ないこと、休日の学習4

時間についても平均より少ないこと、友達の前で考えや意見を発表することが得意であると回答した生徒が少なかったことが挙げられる。また、学校に行くのが楽しいと回答した生徒も小学校と同じく少ない結果であった。家庭学習のあり方や授業については、学校で再考する必要がある。

次に学校に対する質問紙調査の結果である。小学校では学習の規律がしっかりと定着しており、授業においてはめあて・まとめを位置付けている学校が多いという結果が出ている。これは、児童・生徒の意識調査の結果と一致している。また、学校全体の学力傾向や課題について、全職員間で共有している学校が多いとの結果も出ている。このような調査結果からも、本市においては日常的な授業改善が進んでいるといった実態が浮かんできた。課題としては、児童の情報機器の活用を図る校内研修の推進、言語活動の充実について全職員で共通理解を図る実践を行っている学校が少ない。実物投影機とプロジェクター・スクリーン等を小中学校全ての普通教室に配備し、教師のICT機器の活用は進んだ一方で、児童のICT活用の日常化については進んでいない実状が分かった。

次に中学校についてある。生徒の姿や地域の現状に関する調査や各種データに基づき、教育課程の編成を進める学校が多いこと、特別支援教育について理解し、生徒の特性に応じた授業づくりをしている学校が多いこと、校長のリーダーシップの下、校内研修を進めている学校が多いということがわかった。課題として、対象学年の生徒は私語が少なく、落ち着いていると回答した学校が少なかったこと、これは本市としては初めて課題として浮かび上がり、大変危惧している。また、授業において課題を設定し、その解決に向けて話し合いまとめ、表現する学習活動を取り入れている学校は少なかったこと、また、小学校と教育目標や全国学力・学習状況調査の結果・課題の共有をしていると回答した学校は少なく、さらなる小中連携の必要性がある。以上で本年度の詳細な結果の報告を終わる。

花里委員長： 何か質問はないか。

木下委員： 詳しく、具体的に説明いただき感謝する。本年度は理科の結果が出ていないが、理科は実施されていないのか。昨年は小学校も中学校も国語・数学・理科の3教科とも県・全国平均を大幅に上回っていた。1年間でこれほどの差が出るのか不思議に思っている。あまり目先の数値に振り回されたくないが、先日、本渡中学校へ学校訪問した際、授業中に生徒たちが私語をしている姿、落ち着いて授業に臨んでいない姿を見た。この結果が頷ける、さもありなんと納得したところである。学力向上に向け詳しく説明があったので繰り返しになるが、自分が思ったことを述べさせていただく。まず、1点目に基礎的・基本的な事項を確実に習得させていただきたい。例えば、課題として挙げられているが、中学校古典で歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直せないとあるが、このことは本当に基礎的な学習が出来ていないことがわかる。基礎・基本を確実に習得させて、学習規律をきちんと身につけさせていただきたい。授業中の私語が少なく落ち着いていると回答した学校が少ないということで、本市において初めての課題として出てきたとの説明があったが、私も学校訪問に行き、そのように思った。2点目に授業の充実だけでなく、家庭学習の習慣化も努力していただきたい。課題に挙げられているように、家庭学習の与え方については、校内で共通理解を図り、推進していただきたい。3点目に平均値が大変低かった数学に関しては、どうしても授業の中だけでは習得させるのが困難であるので、放課後の個別学習や、長期休業日における補充学習を各学校で実施していただきたい。しかし、学校訪問に行くところの学校も学力向上に向けて実施していると説明がある。説明を聞いていたので、調査の結果を不思議に思った。それから、学習以外で児童・生徒への調査で気になったのが、小学生も中学生も学校に行くのが楽しいと回答した児童・生徒が少ないという結果。この結果が大変気になった。これは、学力向上以上に各学校で検討していただきたい。最後に、課題として挙げられている授業における

児童・生徒自らの課題設定、児童・生徒同士の教え合い学び合う共同学習については、次の学習指導要領が目指すところであるので、各学校において学校全体で共有し実施していただきたい。校長会において伝えてあるということであるので、各学校で十分、分析・改善していただき、来年度の全国学力・学習状況調査に期待したい。

山本課長 : まず、理科の実施であるが、昨年度は実施されたが本年度は実施されなかった。3年に1度実施される。学校が楽しいという児童・生徒が少なく、また、落ち着いた雰囲気の中での授業がなされ私語が少ないと回答した学校が少ないということであるので、改めて各学校にお願いし、必ずや来年度は成績が復活するよう行っていきたい。

菘田委員 : 10ページに記載されている先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところまで教えてくれると回答した生徒は少ないとある。感覚の受け止め方の違いかもしれないが、10ページ中ほどに記載されている学校全体の学力傾向や課題について全教職員間で共有している学校は多いとのことであるが、学校全体の巻き込みが上手で良い傾向である。ローマ字に関して、私には子どもが2人いるが、中学生の娘の時にはローマ字は簡単に習った程度であったが、3年生の息子は宿題が繰り返し繰り返しだされている。この結果がすぐに反映され、今回のローマ字の書きとりができるようになり、成果として表れており感心した。

行合委員 : まず1つ目の質問であるが、この調査の回答者は誰であるのか。

岡田審議員 : 職員ひとりひとりである。

行合委員 : 学校訪問に行った際、指導主事が学校の先生方に指導されていることを耳にする。非常にありがたいことであり、感謝する。ただ、先生方の成長・指導方法になかなか繋がっていないと感じている。指導主事の指導が先生方になかなか浸透していないのではないかと。11ページ下段に記載されている生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたとあるが、課題の設定はどのようになされているのか説明いただきたい。子どもたちの課題設定であるのか。

岡田員議員 : 国語・算数・理科・社会ということではなく、総合的学習であるとか学級活動であるとか課題設定するような学習の機会が設定されるが、各学校で課題が決められていて、生徒が自由という点では天草市においては少ないことが考えられる。

行合委員 : 学校訪問をして感じることであるが、「子ども達自身が共に学び共に考える、育つ」このような教育は大切ではないかと思っているが、なかなか訪問した際にはみられない。先生が子ども達に教えていく昔ながらの教育体制であるとみている。もっと子どもたちが深く、ひとつひとつ考えていけるような授業体制になれば、考える力、学習の楽しさが伝わっていくと思っている。また、教師の立場としてマンネリ化していくのではないのか。先生も授業を行う時にマンネリ化せず、子ども達がいかに自分の授業に食いついてくるか、意欲的に取り組んでいただきたい。

岡田審議員 : その点においては、課題であると認識している。課題解決、学ぶ喜びを感じられる授業づくりを行っていきたい。一つ確認させていただきたいが、本年度は4月19日に実施予定であったが4月14日・16日に地震が発生した。熊本は実施しなくてよいとのことで、新聞にも問題が掲載された。その後、実施出来る所は実施するようになった。特にアンケート調査は役に立つ。そのようなスタンスで実施した。ただし、校長には結果は結果として出ているので、この結果を分析し、チャンスと捉えより良くしていこうとやっている。地震と学力調査の結果の相関関係はわからないが、過去5年間にない結果であった。急に先生方の指導が悪くなったということではない。

菘田委員 : 10ページ下段に記載の予習や復習の際に教科書の活用を促していると回答した学校は少ないとはどういうことであるか。

岡田審議員 : 教科書を先に勉強するということが答えを先に知ることになる。授業展開としてはわ

からない方が面白い。私は社会科が専門であるが、例えば東北地方は米作りが盛んである。米は熱帯植物であるというところから授業を行う。分布を調べてみようとなった場合、北側に重なっている、生産量1位は北海道であり、東北での生産量が多く、有名なブランド米も多い。何故だということで調べる際、教科書を予習して事前に読むことによって、当然のことになり追求活動が面白くなる。そのような捉え方をする教員もいると思う。一律に教科書を予習しているから良いということではない。楽しいの捉え方は考えないといけない。好き勝手できるから楽しいと、一生懸命学んできつけれども友達と競い合って乗り越えて楽しいと、楽しさの質を問題にしていきたい。

石井教育長： 学校は楽しいと、子どもたちはどう捉えているのか。我々は楽しくない学校生活を送っているとは校長ヒアリングをしても学校訪問をしても思わない。学校を楽しくないというのが多いということである天草市においては。本渡中学校を見ていると、一生懸命である。共通テストでも精一杯踏ん張ってもらっている。先生方は夜中に保護者から呼び出されてどうにかして欲しいなど大変な思いをされている。そういうこと言っても仕方無い。盛んにめあてを黒板に書き、まとめをするよう教育事務所も何度も指導し、天草市も指導しているが、やはり、到達していない教員も存在する。基礎的・基本的なところを上天草市は行って上昇していると聞いており、そのようなところを実践していかなければならない。いづれにしても学校が頑張らなければならない。ただ、校長先生は認識されていると思っている。今年は実施するだけ実施して欲しいと言ったことが悪かったのではないか。これ以上、この様な事が無いようにやっていきたい。

木下委員： 今、学校が楽しいというところであるが、この文章を読んで、子ども達の居場所があるのか無いのかと捉えた。居場所があるから学校が楽しい、自分の置かれている居場所が不安だから楽しくないと捉えた。居場所が無い子ども達にとって学校は安全で居心地が良い場所になるよう要望したく伝えた。教育長も言われたように先生方は頑張っておられる。12月24日のクリスマスイブの日にも遅くまで電灯が点いていた。本当に頑張っていらっしゃる。

行合委員： 先ほど木下委員が言われたように、学校でそれなりの対応、余暇を使ったり必要ではないかに合わせてであるが、東北の高等学校の学力が高い。それを聞くと、学校でそれなりの対応をされている。木下委員の言われたことも一理ある。

黒鶴職務代理者： 先ほど岡田審議員が話しで、予習をすることによって授業が楽しくなくなるとのことを聞いて一理あると思ったけれども、やはり、予習をしているか、していないかの設問は、予習をすることが良いから子ども達に問うていると思う。予習のやり方・取り組み方、あるいは指導・導き方を先生方が子どもに指導することによって、子どもたちの捉え方も変わり、授業も楽しいとなるのではないか。また、今回の調査結果で、先生方のプロ意識が欠けているのではないかと感じた。最近、夢の中に自分の姿が出て、何かをしていた。自分にはプロ意識が足りなかったという夢を見た。久しぶりにこのような夢を見て、もう少し頑張らなければいけないと思った。先生方にももう少し頑張って、子どもたちを楽しくさせるにはどのようにすれば良いのか、先生方はそれぞれ持ち味が違う。それぞれで良いので方針に則るだけでなく、子どもたちが楽しければ良い。自分も子ども達より一歩も二歩も進んでいって授業に取り組んでいただきたい。最後に、ボランティア活動に参加したことが多いとあるが、果たしてそうであるのか。どのような団体・組織の取り組みに参加しているのか説明をお願いします。

岡田審議員： ボランティア活動についてであるが、天草市全体でも参加する子どもたちは以前に比べ減っている。かなり減っていると認識しているが、全国平均と比較すると倍くらい高かった。日本全国でボランティア活動への参加は減っている。その中でも祭りに参加したりする子どもたちが多かった。あくまで子どもたちの回答であり、全国平均との差である。これまでもずっと天草市では全国平均より高かった。

花里委員長： プロ意識を持つことは大切である。先生方には頑張っていたが、今一つ何

かが足りなかったことは事実である。その点に課題を置いて取り組んでいただきたい。一つお願いしたい。子どもたちの夢、大きくなったら何になるのだろうか、何を指すのだろうかという意識が中学生になっても生まれてきていない子どもが多い。小学校の時から、大きくなったら学校の先生になる、公務員になる、父親の後を継いで漁師になるなど夢を持たなければならない。入学式・卒業式で話をしている。子どもたちには夢を持たせる、希望を持たせる。それを目指す気概をどうやって植え付けていくかが根本にあると思っている。今年の課題を克服し、来年以降はぜひ福井県に負けないよう頑張っていたきたい。

(2) 平成29年1月行事予定について

山名課長 : 資料13ページをお願いします。1月の3日・4日に成人式が行われる。1月の教育員会定例会を20日(金)に予定している。その他の行事は予定表をご覧ください。

7 その他

川端課長 : 本日配付した学校給食週間ふれあい給食について(案)をご覧ください。昨年も実施したが、本年度も教育委員の皆さんに学校給食週間の期間中にふれあい給食に参加していただきたく計画した。基本的には学校給食週間の初日1月24日に計画している。学校の都合が悪い場合は別の日に計画した。12時までに学校へ行かれるようお願いする。

花里委員長 : 他に何かないか。

山名課長 : 本日配付した牛深東小学校の校章と校歌について説明する。深海小学校と久玉小学校の統合により、牛深東小学校が来年4月に開校する。その中で、学校統合準備委員会を設け校章及び校歌について協議を行った。校章であるが深海地区及び久玉地区の児童生徒及び保護者、地域に対して広報誌に折り込みをし、公募を行った。23点の応募があり、選考の結果、宇良田いづみさんの作品が選ばれた。子ども・保護者・地域住民・学校が手を繋いでいるデザインがされている。なお、校歌であるが、選考・決定を教育委員会に委任されたため、協議の結果、作詞を元教員で天草中学校校歌の作詞もされた内保良隆様に、作曲は牛深東中学校の赤星校長にお願いをした。素晴らしい校歌が出来たのでお聴きいただきたい。

次に閉校式の実施計画をご覧ください。期日であるが、2月5日午前9時に久玉小学校。2月19日午前9時に深海小学校でそれぞれ計画されている。主催は天草市及び教育委員会である。式典は約45分を予定している。式典終了後、久玉小学校では学習発表会が計画されており、また、深海小学校では閉校式実行委員会が主催する閉校記念行事が行われる。後ほど出席の確認をさせていただく。開式及び閉式の挨拶についても決定していただきたい。

山本課長 : 天草市立小中学校教職員定年退職者感謝状贈呈式について説明する。来年2月22日水曜日、午後2時から開催する。教育委員の皆さんにもお忙しい中ではあるが出席をお願いしたい。併せて本日配付させていただいている年度末から年度初めにかけての行事予定案について説明する。

2月22日退職者感謝状贈呈式に引き続き、教育論文表彰式を行う。中学校の卒業式は3月12日(日)の予定である。幼稚園の卒園式が3月17日、小学校の卒業式を3月24日(金)に予定している。また、3月27日(月)に市内園長・校長会の送別会をプリンスホテルで行うこととしている。

続いて教育事務所管内の予定である。29年度に入り、4月3日(月)、午後1時から天草教育会館で管内辞令交付式、4月4日(火)、午前9時から天草市民センターで辞令伝達式を行うこととしている。また、同日に服務宣誓式を行う。小学校及び中学校の入学式については、4月11日(火)、午前に小学校、午後中学校を予定している。それから、幼稚園の入園式は4月12日(水)に予定している。

次に、2点報告する。熊本市にある西邦電気から天草市の子どもたちに役立てて欲しいとのことで、会社創立70周年を記念して寄附金70万円をいただいた。12月9日に贈呈式を行った。県内8自治体に寄附をされており、天草市に営業所がある縁で寄附をいただいた。また、本日、天草漁業協同組合から新和町の特産品であるあおさを使ったあおさかりん糖が贈呈された。中学生はキャリア教育を受けており、天草の味を知り起業家精神を養って欲しいということで、市内中学生一人ひとりに渡せるようお願いした。2学期が終了しているため新学期に配付することとしている。

花里委員長：他に何かないか。

大脇課長：1月3日・4日に開催される成人式について改めて説明する。牛深を含め新成人は925名。1月3日に本渡地区・有明地区・倉岳地区・栖本地区・天草地区・河浦地区で開催される。1月4日には御所浦地区・新和地区・五和地区の3地区で開催される。昨年の教育委員会で委員から意見をいただいていた開式の言葉を、できるだけ新成人によって行うようにとのことであった。昨年は3地区のみが教育委員の皆様をお願いしたところであるが、本年度は有明地区で新成人が行うこととした。河浦地区及び新和地区でのみ教育委員に開式の言葉をお願いしたい。それから、五和地区の成人式においてアトラクションでタイムカプセルの受け取りをお願いしたい。30年後に開封予定のタイムカプセルである。正月の3日・4日であるが、よろしく願います。

花里委員長：他に何かないか。

石井教育長：先ほどの学力調査の結果について今年度は公表しないこととしている。それから12月市議会が終わり、3名から教育委員会関係の一般質問があった。その中のひとつに、定時制・通信制を無くさないということで、現在8校定時制がある。「定時制の灯を消す第36回大会」が天草市の教育会館で開催され、上天草市教育長と共に参加した。天草高校の定時制の入学者が昨年度はいなかった。今回、若山議員から主に部長が答弁したが、市長・教育長はどのような認識を持っているかの認識論。それから今後に渡って灯を消さない、無くさないようよろしく願いたいとのことであった。本日午前中に、県の宮尾教育長に、このような意見が出ているのでよろしく願いたいと伝えたところである。それから楠本県議が過去に渡り相当数の中学3年生が天草島外に出ていると。天草の高校には魅力がないのかとの質問が出たとのことである。そればかりではなく、いろいろな要素があって天草から出て行っていると話をした。教育委員会としても天草市の幹部職員と県立高校の校長と懇談会・懇親会をしている。昨年は市長にも話をさせていただいていることを伝えた。宮尾教育長も義務教育課と高校教育課が仲良くやっていると色々なことをやっていかなければならないと言っているとのことであった。それから勤務時間関係であるが、テレビ等で放送された電通の件もあったので10月に調査を行った。本渡北小学校では20日間の勤務の内5日間、数名が午後10時以降も業務を行っていた。また、本渡南小2日、稜南中12日、本渡中学校は16日であった。これについては危惧している。電通社員の母親の手記が新聞1面に記載されていたが、電通のようになってからでは遅い。新任とベテランの教員は違う。新任がベテランと同じ様にやろうとすると遅くなってしまふ。教員が疲れてはいけない。

花里委員長：他に何かないか。なければ以上をもって、本日の会議を閉じる。大変お疲れ様でした。